

#### 4.2 河川管理との関わり（河川の自然度、健全度）

ここでは、河口から上流にいたるまで連続的に鳥類の確認種数や生息環境の指標性ごとの確認個体数を整理し、河川ごとの鳥類相の特徴を検討しました。

##### 【鳥類の全流程にわたる種数・個体数の分布状況】

(鳥類調査)

- ・ 北海道の後志利別川では樹林指標種、関東地方の荒川では人家周辺指標種、北陸地方の阿賀野川では河川流水指標種と樹林指標種の比率が高い

鳥類の1kmピッチの確認種数と生息環境別確認個体数を整理しました。

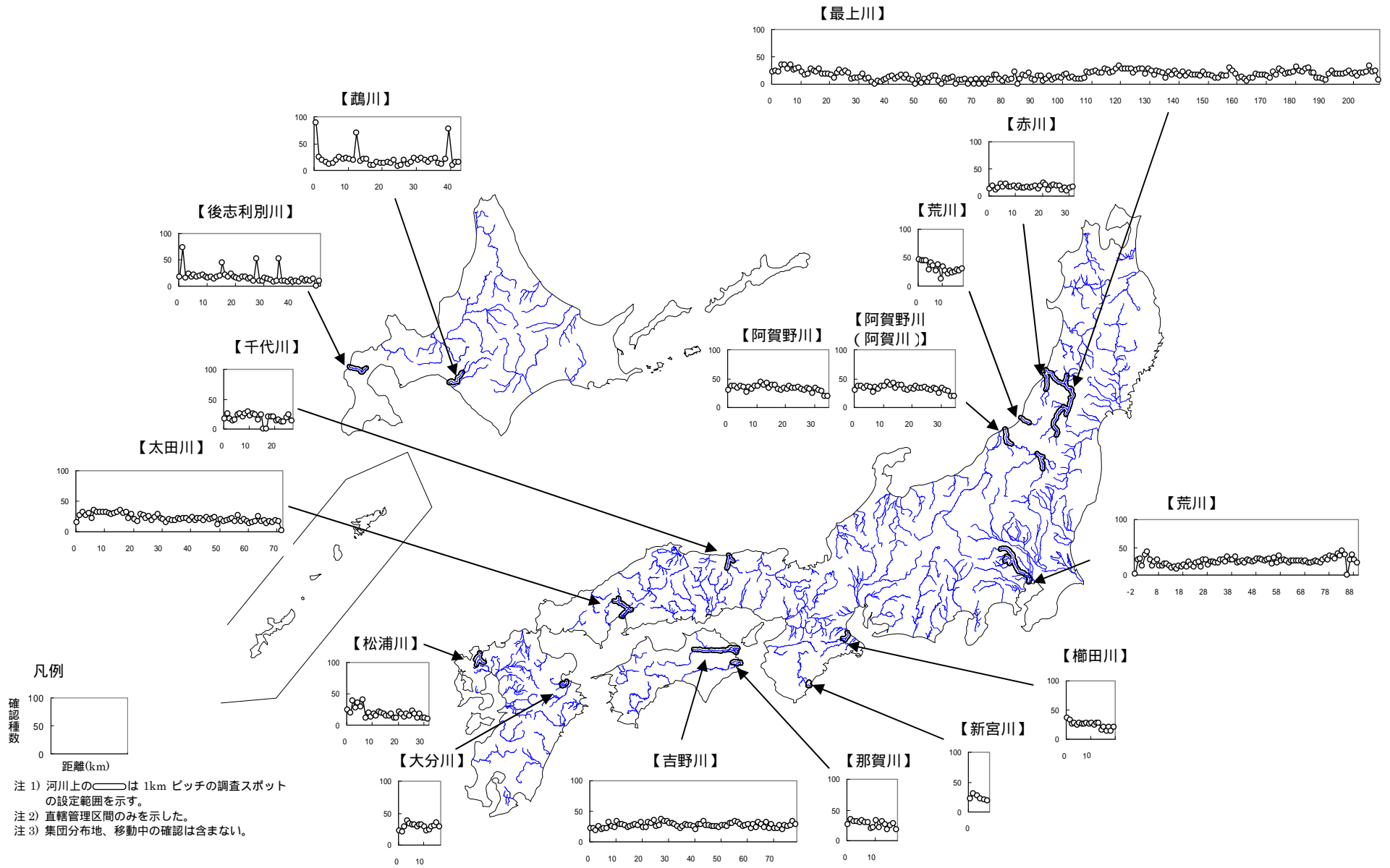
今回とりまとめを行った一級河川15河川では、海岸指標種(海岸を生息環境とする種)や樹林指標種(樹林を生息環境とする種)、水辺指標種(水辺を生息環境とする種)などの確認状況が、河口から上流に至るまでの間に刻々と変化していく様子が確認されました。また、河川によってそれぞれ特徴のある流程分布を示すことが把握できました。北海道の後志利別川では樹林指標種、関東地方の荒川では人家周辺指標種、北陸地方の阿賀野川では、河川流水指標種と樹林指標種の比率が高いなど、それぞれ特徴のある鳥類相であることが示されました。

(資料掲載：4-12～14ページ)

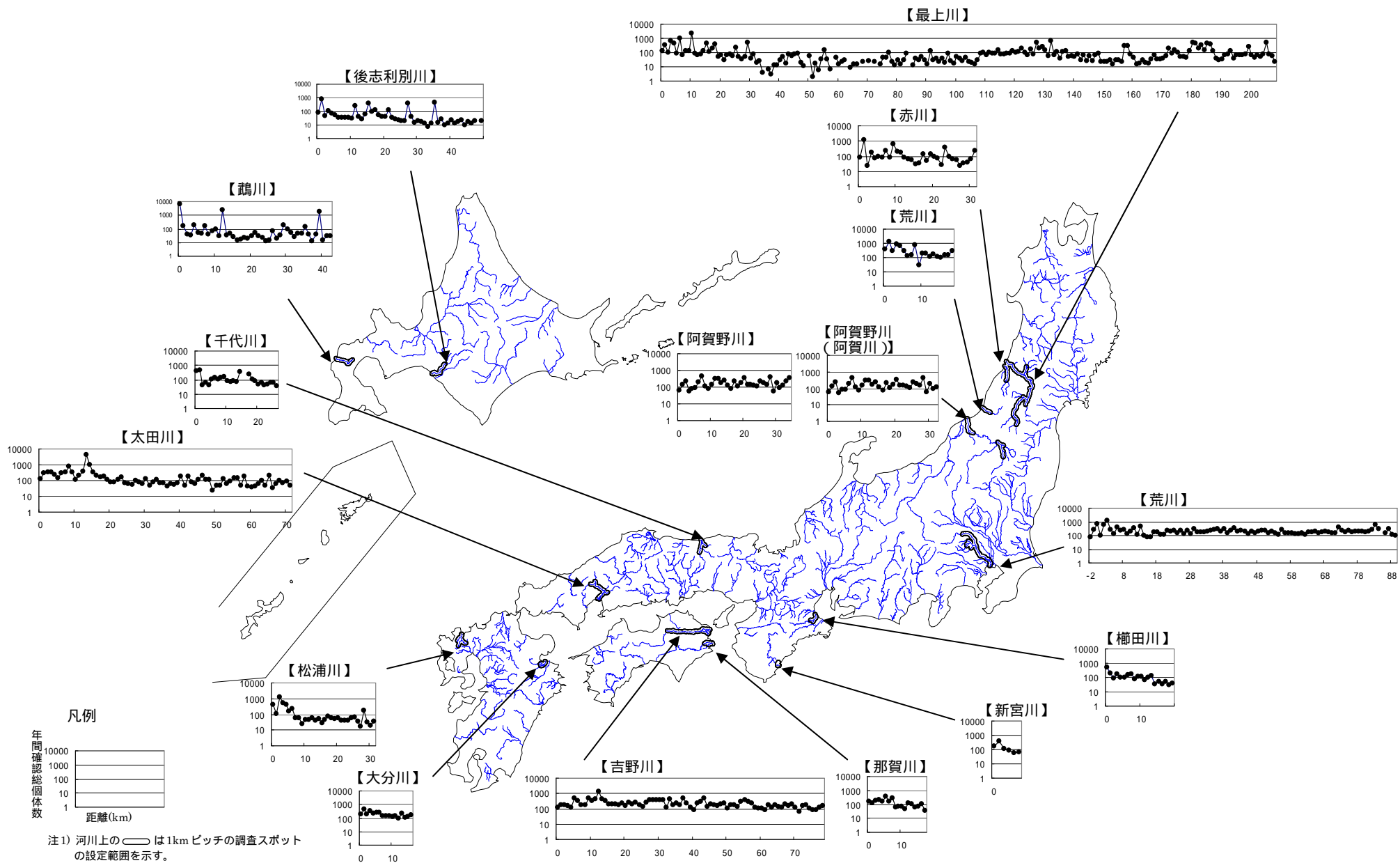
ここでは、鳥類の1kmピッチでの確認種数と、人家周辺指標種(人家周辺を生息環境とする種)、海岸指標種(海岸を生息環境とする種)や、樹林指標種(樹林を生息環境とする種)、水辺指標種(水辺を生息環境とする種)、河川流水指標種(河川の流水を生息環境とする種)や静止水面指標種(湖沼などの静止水面を生息環境とする種)など生態的な特徴を指標する種毎の確認個体数を整理しました。また、それらの個体数組成比率を整理しました。

今回とりまとめを行った一級河川15河川では、河口付近では海岸指標種が多く確認され、また、人家周辺指標種、樹林指標種、水辺指標種、河川流水指標種や静止水面指標種などの確認状況が、河口から上流に至るまでの間に刻々と変化していく様子が確認されました。また、北海道の後志利別川では樹林指標種の割合が高く、関東地方の荒川では全体的に人家周辺指標種の割合が高い傾向がみられました。また、北陸地方の阿賀野川では樹林指標種と河川流水指標種の割合が高いなど、河川によってそれぞれ特徴のある鳥類相を示すことが把握できました。これらの特徴は、開放水面の面積や河川敷の植生など河川区域の状況だけではなく、河川周辺の都市や人家、田畑、森林などの状況も関係していると考えられました。

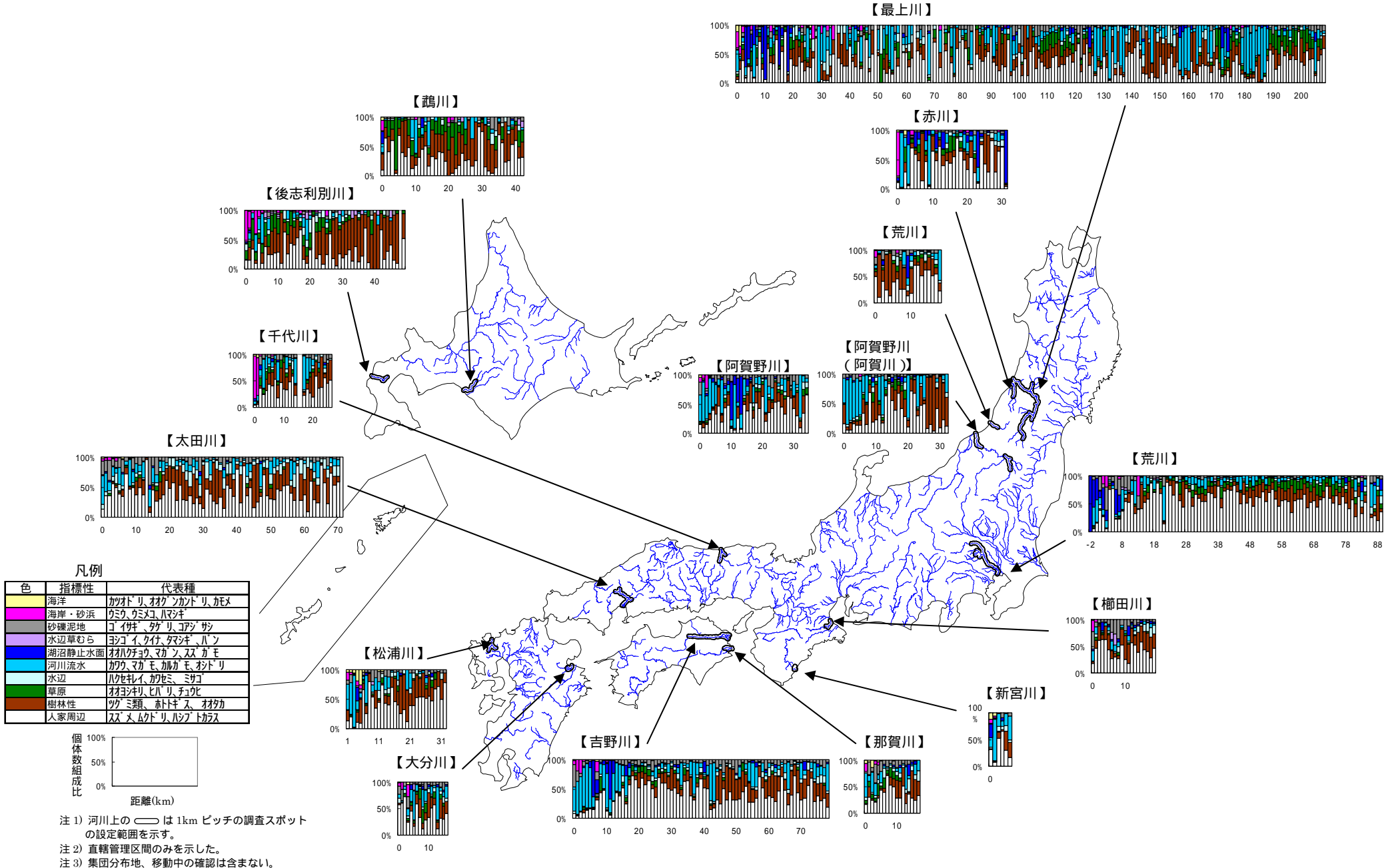
生息環境の指標性は、原色日本野鳥生態図鑑<水鳥編>・<陸鳥編>(保育社)を参考にしました。



鳥類の1km ピッチの確認種数 (平成 20 年度調査結果)



鳥類の1kmピッチの確認個体数(平成20年度調査結果)



鳥類の1kmピッチの確認個体数組成比（平成20年度調査結果）

河川には、河口域などに広がるヨシ原や、洪水などによる攪乱によって成立する裸地や砂礫川原など特有の環境がみられ、様々の種に生息場(ハビタット)を提供しています。ここでは、河川環境にかかわりの深い種の確認状況を整理しました。なお、1～3巡目調査との比較は、調査の範囲や時期、回数などの条件が必ずしも同一ではありません。また、移動性の高い種や、限られた季節にしかみられない種もあることから、比較結果は同一河川での消長を示すものではなく、全国的な傾向を検討するための参考です。

**【河川に関わりの深い種 (オオヨシキリ、コヨシキリ) の確認状況】**

(鳥類調査)

・ **オオヨシキリは全国の15河川で確認、コヨシキリは6河川で確認**

ヨシ原で繁殖する代表的な鳥であるオオヨシキリとコヨシキリの確認状況を整理しました。

オオヨシキリは、今回とりまとめを行った一級河川15河川の全河川、コヨシキリは7河川で確認されました。確認個体数をみると、オオヨシキリはコヨシキリよりも多くみられました。

(資料掲載: 4-16～17、4-37～38 ページ)

オオヨシキリは、東南アジアから渡来する夏鳥で、全国の水辺のヨシ原に生息する種です。海岸や河口、川岸、湖岸のヨシ原で普通に繁殖します。コヨシキリも同様に夏鳥で、全国の水辺のヨシ原にも生息しますが、ススキやヨモギなどが茂った乾いた草原に多くみられます。東日本では低地でも繁殖しますが、西日本では標高の高いところの背の高い草原で繁殖します。両種は、ともに昆虫類等を餌とします。

オオヨシキリは、今回とりまとめを行った一級河川15河川の全河川で確認されました。概ね河川の下流から上流まで広く確認されました。コヨシキリは、全国の7河川で、おおむね関東以北の河川で確認されました。

オオヨシキリは、年間総確認個体数が10個体以上の地点が多くみられましたが、コヨシキリは概ね数個体程度でした。参考として、ヨシ群落の1kmピッチごとの面積の分布状況を示しました(参考図)。オオヨシキリは確認個体数が多いスポットでは、比較的大きなヨシ群落がまとまってある傾向がみられました。

1～4巡目調査全体での確認状況を比較すると、確認河川数の比率に大きな差はみられませんでした。

**1～4巡目調査の確認河川数の比較**

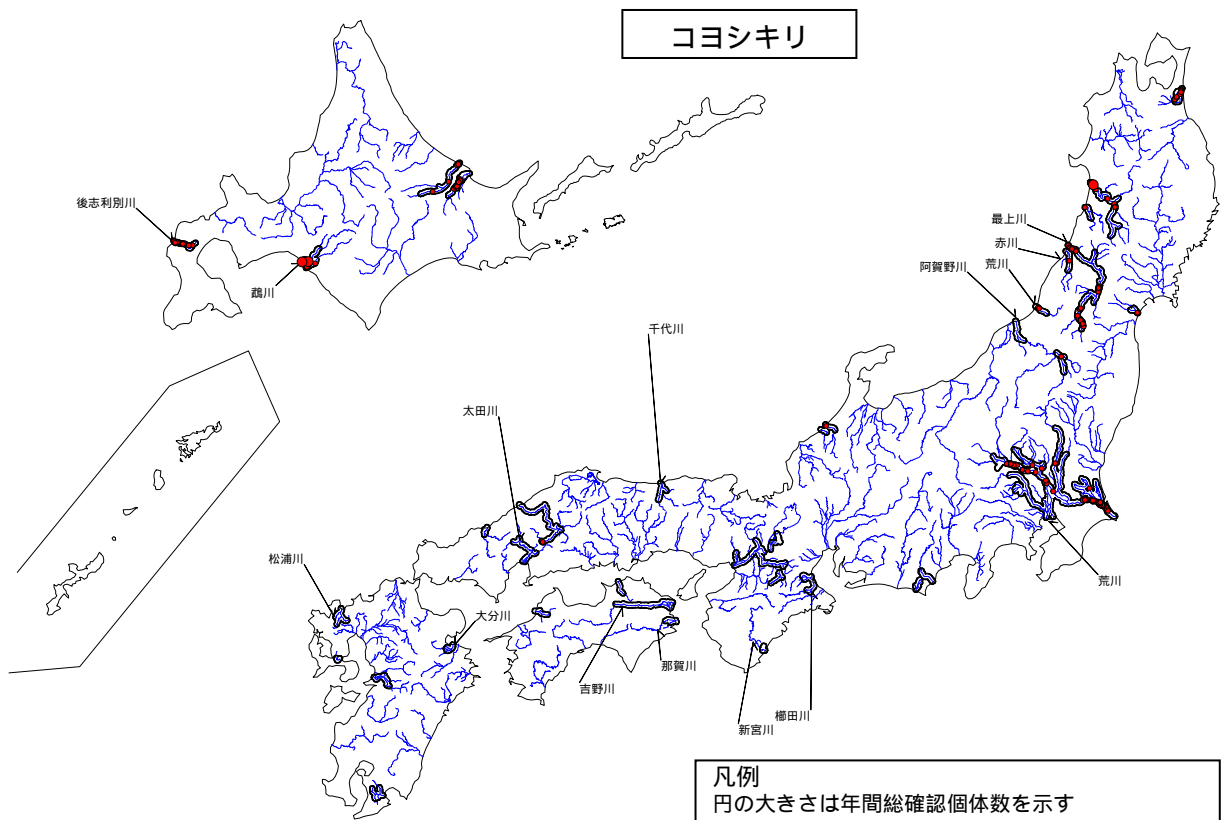
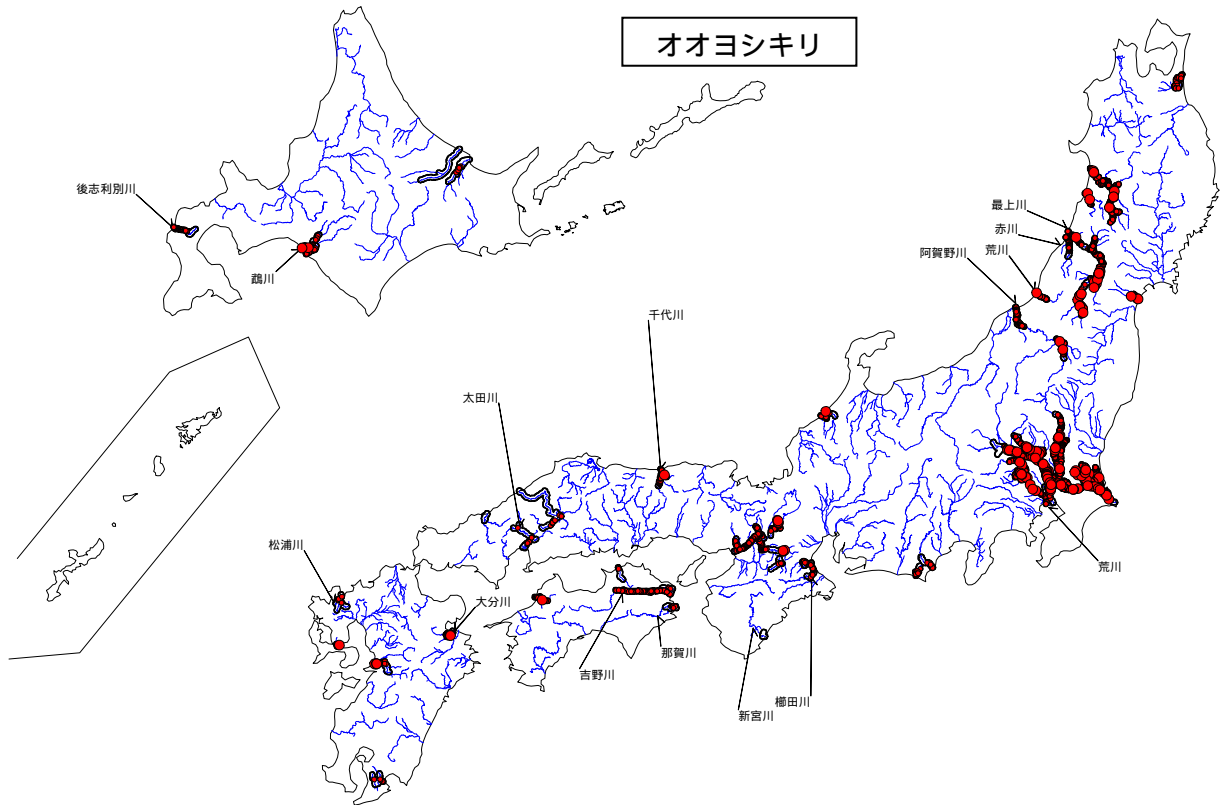
種類	1巡目調査 (81河川)	2巡目調査 (118河川)	3巡目調査 (122河川)	4巡目調査 (48河川)
オオヨシキリ	76河川 〔93.8%〕	113河川 〔95.8%〕	116河川 〔95.1%〕	45河川 〔93.8%〕
コヨシキリ	33河川 〔40.7%〕	55河川 〔46.6%〕	56河川 〔45.9%〕	21河川 〔43.8%〕

注1;確認河川数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。

注2;1～3巡目調査のデータは対象全河川のうち、種名等について真正化され、河川環境管理システムに格納されている調査データを対象とした。

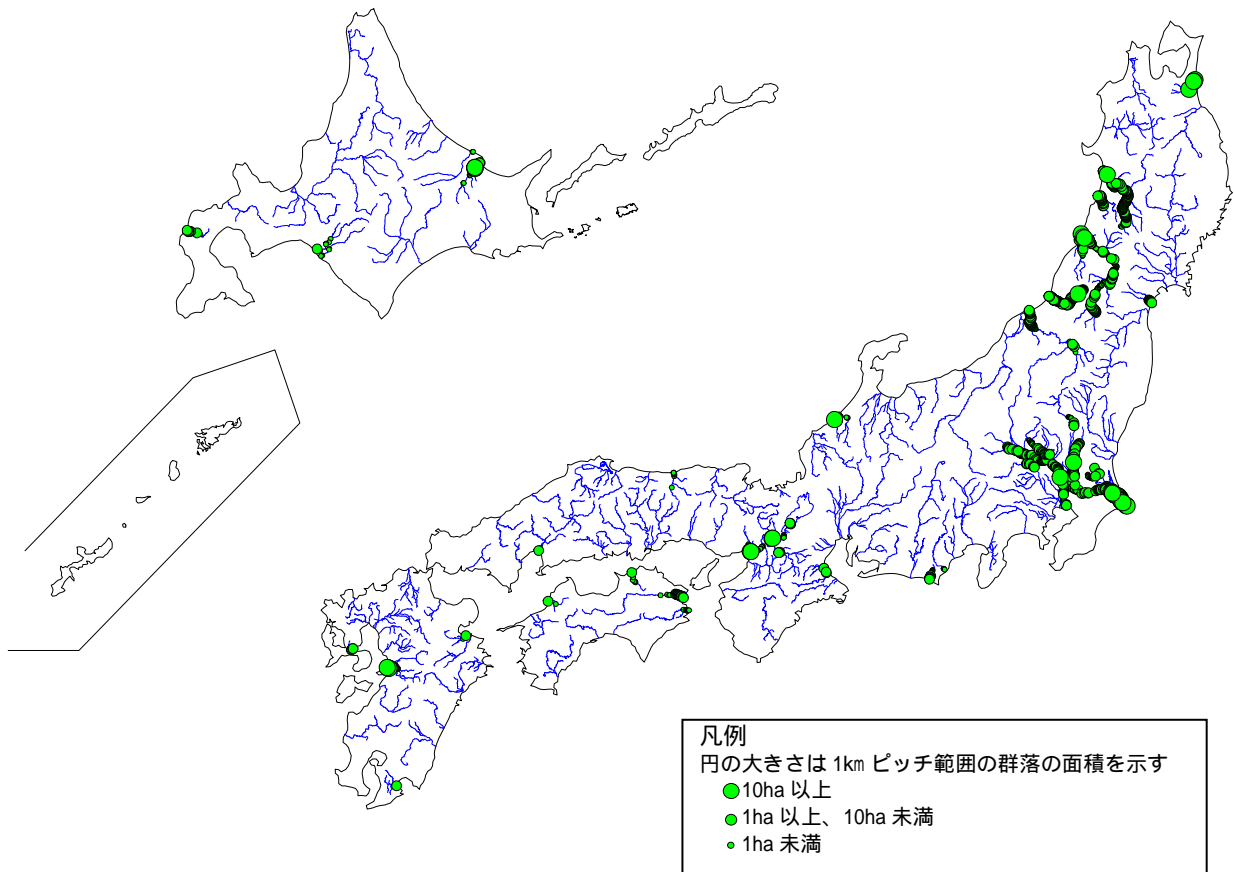
注3;( )内は分析対象河川数を示す。

注4;〔 〕内は確認河川数の分析対象河川数に対する%を示す。



**凡例**  
 円の大きさは年間総確認個体数を示す  
 ● 100 個体以上  
 ● 10 ~ 99 個体  
 ● 10 個体未満  
 ○ 1km スポット設定範囲を示す。  
 (集団分布地、移動中の確認は含まない)  
 (河川名は平成 20 年度とりまとめ対象河川を示す)

オオヨシキリ・コヨシキリの確認スポット (4 巡目調査)



注) 当該河川の最近年に実施された河川水辺の国勢調査の植物調査結果に基づいた。

参考図 1km ピッチのヨシ群落の面積

【河川に関わりの深い種（コアジサシ、コチドリ、イカルチドリ）の確認状況】（鳥類調査）

- ・ 砂礫河原で営巣するコアジサシを全国の 9 河川、コチドリを全国の 15 河川、イカルチド리를 13 河川で確認

河川での砂礫河原や砂洲の状況を把握するため、砂礫地で営巣するコアジサシ、コチドリ、イカルチドリの確認状況を整理しました。

コアジサシは、今回とりまとめを行った一級河川 15 河川のうち、全国の 9 河川で確認されました。コチドリは全国の 15 河川、イカルチドリは 13 河川で確認されました。コアジサシは下流で、イカルチドリは上流で多く確認されました。コチドリは下流から上流域まで広く確認されました。

（資料掲載：4-19～20、4-37～38 ページ）

コアジサシは赤道を越えてオーストラリアから渡ってくる夏鳥です。日本では本州以南（西）でみられ、海岸や大きな川の河口や中洲のような、砂や砂利の上に簡単な巣を作って 2～3 個の卵を産みます。個体数が減少しているといわれ、環境省のレッドリスト（2006）では絶滅危惧類に指定されています。コチドリは、主に夏鳥として飛来し、川の中流から下流の砂礫河原、海岸の砂丘や埋立地などに営巣し、全国で繁殖します。イカルチドリは、日本では留鳥として本州以南（西）で繁殖します。主な生息場所は、コチドリよりも上流の河原で、氾濫原の礫の多いところで営巣し、砂や土の多い埋立地では繁殖しません。

コアジサシは、今回とりまとめを行った一級河川 15 河川のうち、全国の 9 河川で確認されました。コチドリは 15 河川すべてで、イカルチドリは 13 河川で確認されました。

確認位置をみると、コアジサシは下流から河口付近で多く確認されました。利根川水系上流の烏川・神流川のスポットでもコアジサシが多く確認されましたが、この地域では、河川内に比較的大きな自然裸地がまとまって分布していました（参考図）。イカルチドリは上中流域で多い傾向がみられました。コチドリは、上流から河口まで広く分布していました。

1～4 巡目調査全体での確認状況を比較すると、確認河川数の比率に大きな変化はありませんでした。

1～4 巡目調査の確認河川数の比較

種類	1 巡目調査 (81 河川)	2 巡目調査 (118 河川)	3 巡目調査 (122 河川)	4 巡目調査 (48 河川)
コアジサシ	47 河川 〔58.0%〕	68 河川 〔57.6%〕	69 河川 〔56.6%〕	27 河川 〔56.3%〕
コチドリ	65 河川 〔80.2%〕	109 河川 〔92.4%〕	117 河川 〔95.9%〕	44 河川 〔91.7%〕
イカルチドリ	61 河川 〔75.3%〕	102 河川 〔86.4%〕	111 河川 〔91.0%〕	41 河川 〔85.4%〕

注 1；確認河川数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。

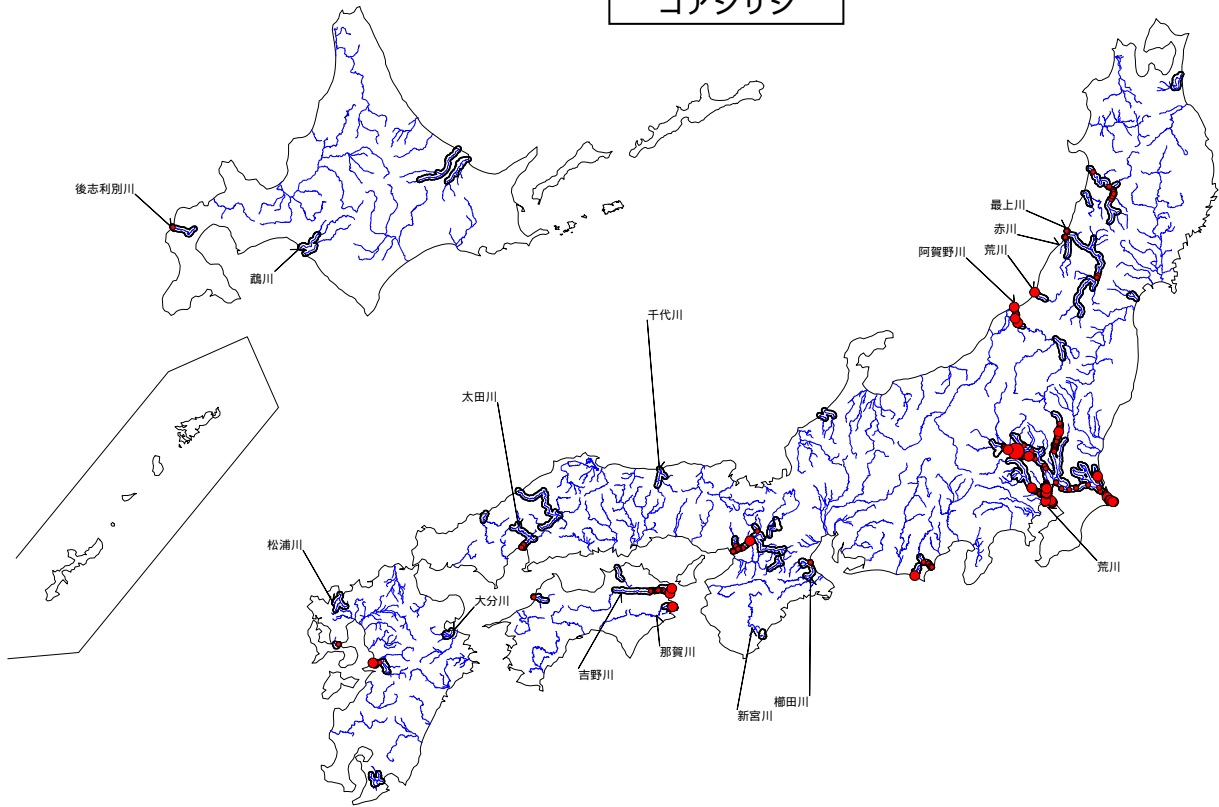
注 2；1～3 巡目調査のデータは対象全河川のうち、種名等について真正化され、河川環境管理システムに格納されている調査データを対象とした。

注 3；( ) 内は分析対象河川数を示す。

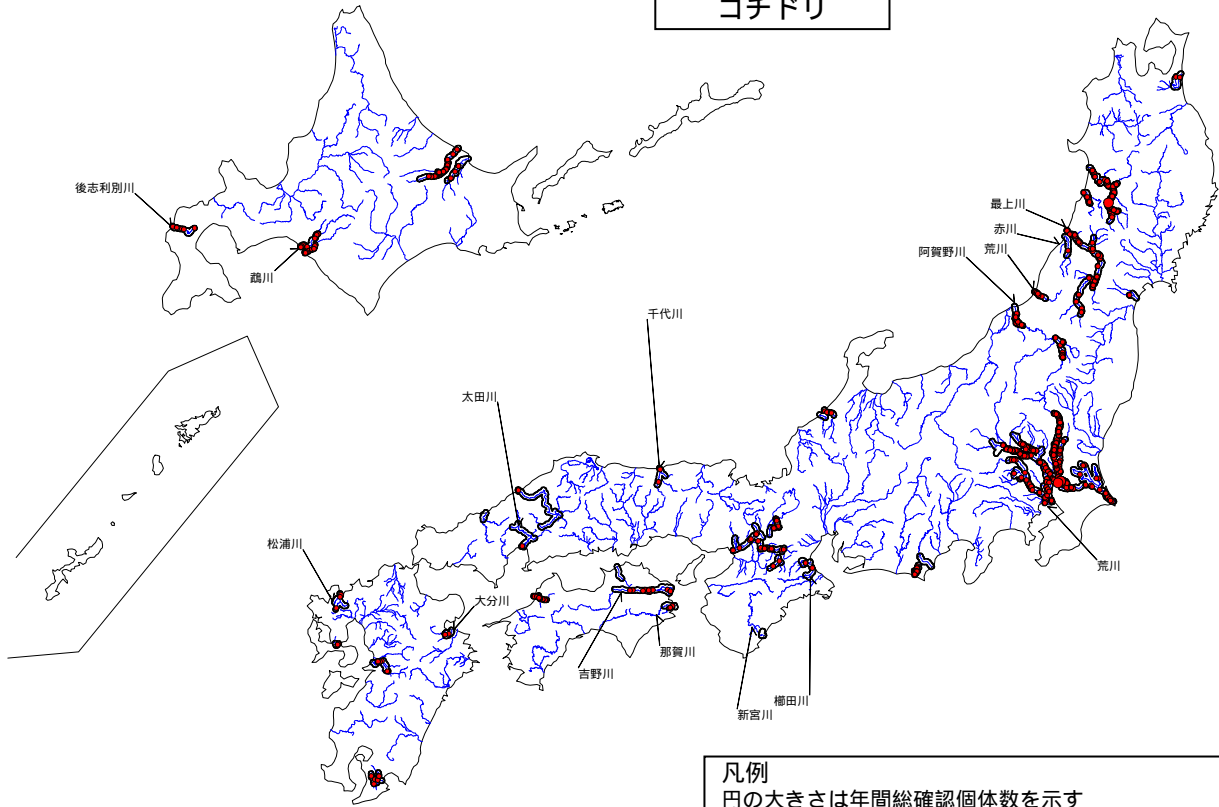
注 4；〔 〕 内は確認河川数の分析対象河川数に対する % を示す。



## コアジサシ



## コチドリ



### 凡例

円の大きさは年間総確認個体数を示す

● 100 個体以上

● 10 ~ 99 個体

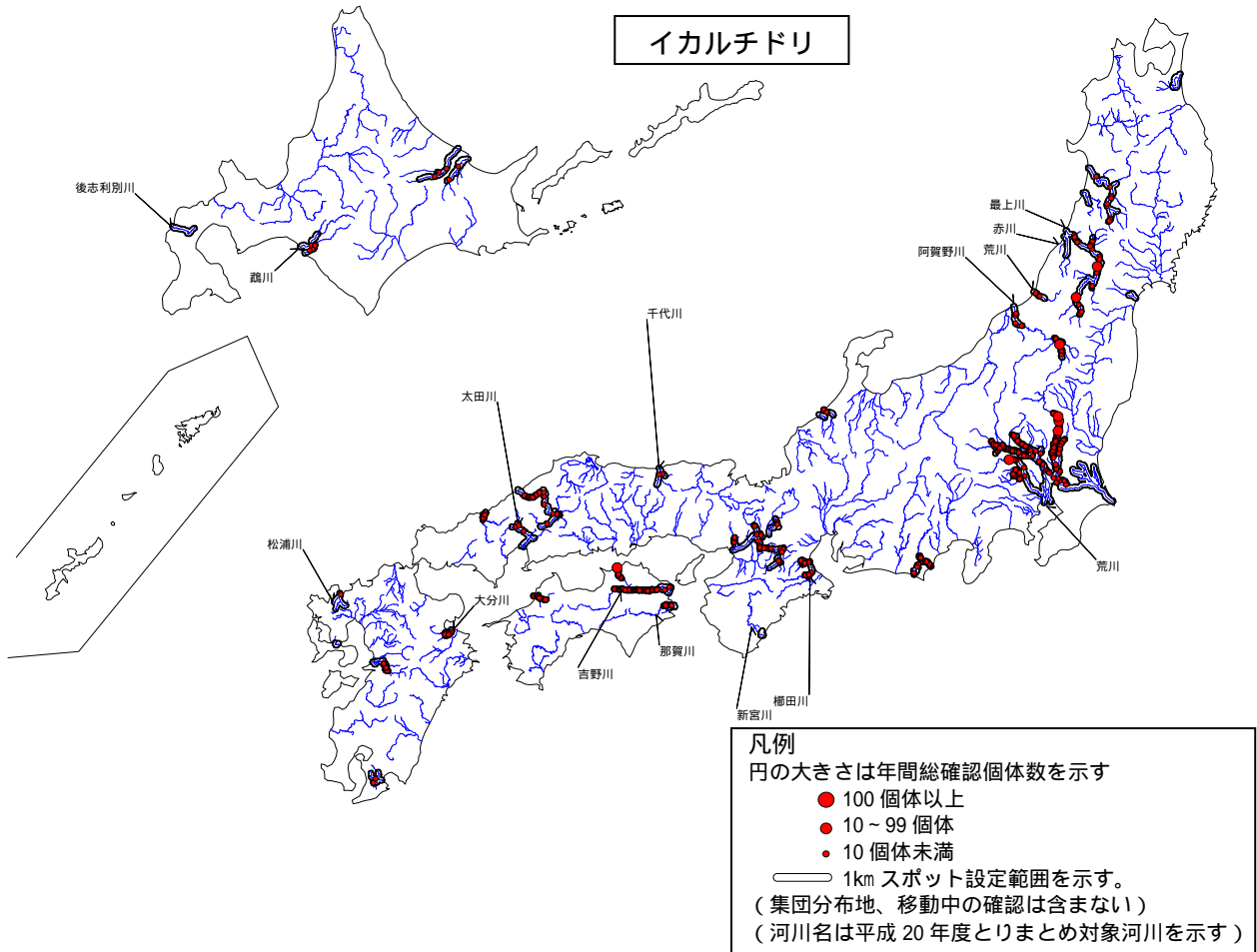
● 10 個体未満

— 1km スポット設定範囲を示す。

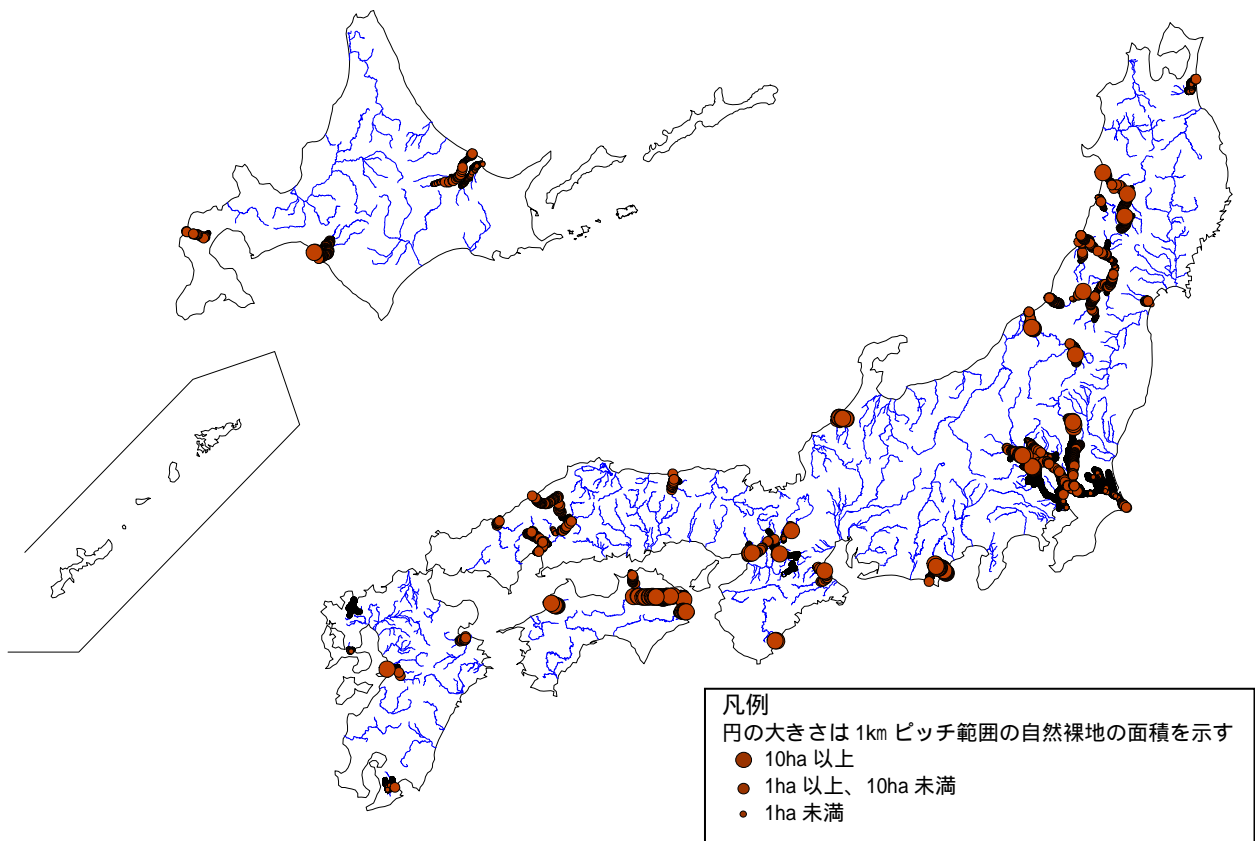
( 集団分布地、移動中の確認は含まない )

( 河川名は平成 20 年度とりまとめ対象河川を示す )

コアジサシ・コチドリの確認スポット ( 4 巡目調査 )



### イカルチドリの確認スポット ( 4 巡目調査 )



注) 当該河川の最近年に実施された河川水辺の国勢調査の植物調査結果に基づいた。

参考図 1km ピッチの自然裸地の面積 ( 4 巡目植物調査より )